

マーカーについて

委員から発言のあった新たなキーワード

事務局が検討した見直しの方向性から加えたいキーワード

第七次行政改革大綱 (H30 - R4)	行政改革推進審議会委員からの意見	事務局が検討した見直しの方向性	各課からの意見
<p><b>1 新たな行政改革大綱の策定に向けて</b></p> <p>(1) 策定の趣旨</p> <p>(2) 行政改革のこれまでの取組</p> <p>(3) 本市を取り巻く課題と目指す姿                      課題1 人口減少と少子・高齢化の進行、厳しい財政状況                      課題2 複雑・多様化する地域課題と市民ニーズへの対応                      課題3 公共施設及び行政組織の活性化・最適化</p>		<p>○第七次まで継承してきたことを踏まえて章立てや内容の見直しをすることから、「改定」が明確になるようにしたい。</p> <p>○策定に向けてという表現をしているが、これまでの経過や改定の趣旨を示す分かりやすい表現に変更したい。</p> <p>○これまで取り組んできた行政改革を包括的に表現していることから、行政改革の沿革と捉えてもらえるよう「行政改革のあゆみ」に見直したい。</p> <p>○現在は課題と目指す姿をまとめているが、課題を本市を取り巻く現状として別章に分けて、目指す姿を一つの章立てにしたい。</p>	
<p><b>2 行政改革の基本的な考え方</b></p> <p>(1) 基本方針                      ア 行政サービスにおける連携・協働の推進                      イ 効果的・効率的な行政運営の推進                      ウ 持続可能な財政基盤の確立                      エ 人材の育成と組織体制の整備</p> <p>(2) 期間</p>		<p>○考え方と期間を別の章立てに分けたい。</p> <p>○基本的な考え方については、取組の方向性や審議の状況を踏まえながら、基本方針の廃止を含めて、後日検討する。</p>	
<p><b>3 基本方針に基づく取組</b></p> <p>(1) 取組実施に当たっての5つの視点</p> <p>(2) 基本方針に基づく取組項目                      ア 行政サービスにおける連携・協働の推進                      (ア) 市民等との連携・協働                      (イ) 民間活力の活用</p>	<p><b>(真野委員)</b>                      ○市民との連携協働を進めるのであれば、市全体の取組を推進する専門部門を作ったらどうか。</p> <p><b>(小池委員)</b>                      ○官民協働は良い言葉であるが、民間からすると丸投げはやめてほしいという思いもある。一緒に悩み、解決し、取り組んでいく姿勢が盛り込めればと思う。</p> <p><b>(阿部副会長)</b>                      ○職員研修所で協働を進める人材の育成や協働の専門部署設置が進むことを期待する。                      ○住民自治協議会への支援を積極的に進めていくべき。</p> <p><b>(阿部副会長)</b>                      ○税金の増加が見込めない中、民間の力を借りることができるよう協働の推進が</p>	<p>○(2)以降の具体的な取組を検討した上で、基本的な考え方との重複感もあることから、取扱いを検討する。</p> <p>○取組は、令和4年度から計画期間が開始されている「長野市総合計画後期基本計画」との整合を図りながら、本審議会委員の意見も踏まえて検討したい。</p> <p>○令和4年4月に策定された「長野市行政DX推進計画」との整合も図りながら、本審議会委員の意見も踏まえて検討したい。</p>	

第七次行政改革大綱 (H30 - R4)	行政改革推進審議会委員からの意見	事務局が検討した見直しの方向性	各課からの意見
	<p>更に重要になる。</p> <p><b>(真野委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○民間活力の活用はオープンガバメント、民間に行政の門戸を開くという発想が大事だと思う。</li> <li>○民間に全ての事務事業をオープンにし、民間やNPOの方から民間なら効率的にできる事業を提案してもらおう。</li> </ul> <p><b>(普世会長)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○民間にとって丸投げではなく、民間に自ら面白いことができないかと考えてもらうことはよいことと思う。</li> </ul>		
<p>イ 効果的・効率的な行政運営の推進</p> <p>(ア) 公共施設マネジメントの推進</p> <p>(イ) 業務と職員数の最適化</p> <p>(ウ) ICTの利活用</p>	<p><b>(宇賀田委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○業務や手続きの簡略化の観点から、書類や書く項目を減らせるものがあるはず。</li> </ul> <p><b>(普世会長)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的にオンラインで完結すれば、市民の利便性も向上し、窓口業務の簡素化や効率化につながる。</li> <li>○人数だけではなく、一人ですべての仕事を担えるかが大事</li> </ul> <p><b>(西脇委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スマートフォンを持っていない年齢層に対する配慮が必要</li> </ul> <p><b>(西脇委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職員の削減について、余力の無さや非常時の対応はどう考えるか。新規職員以外の対応方法はあるか。</li> </ul> <p><b>(浅井委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人口や職員が減少する中でどのように省力化し、効率的に一定レベルのサービスを提供できるか、そのためのIT技術の活用は本筋であり、継続して進めるべきである。</li> <li>○ICT、DXは非常に重要。地域の問題を民間と共にDXで解決していくということにも目を向けていく必要がある。</li> </ul> <p><b>(真野委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行政改革とは、最少の経費で最大の効果を挙げるために生産性の向上がカギである。そのための方策として、市民や民間と連携してコストを削減し、生産性の向上も図る。</li> <li>○行革の観点から、DXや民間参入で職員が少なくても効率的な行政運営を出来るようにすること。限られた経費で人材を確保するには、半農半公務員のように副業できる公務員も必要</li> <li>○定員管理ではなく、いかに労務コストを下げていくかという視点が必要</li> </ul> <p><b>(小林委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職員の確保は大事。リスク事案に対応する余力も必要。未来を想像する中で、適切な項目設定が必要</li> </ul>		
<p>ウ 持続可能な財政運営の推進</p> <p>(ア) 歳入確保への取組</p> <p>(イ) 歳出削減への取組</p> <p>(ウ) 効率的・計画的な財政運営</p>	<p><b>(寺澤委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「持続可能な」という言葉はどうか。</li> <li>○財政基板は持続可能なことが当たり前であり、あえて使う意味はない。長野市財政は従来から健全なレベルを維持している。</li> </ul> <p><b>(真野委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歳出を削減するには民間との連携も関係してくる。全ての分野で公民連携、オープンガバメントが解決策の1つになると思っている。</li> </ul> <p><b>(普世会長)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行政評価は財政的な分野で見ているが、評価対象の見直しなども含めて考えて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歳入確保及び歳出削減は不断の取組であるため、取組として加えていきたい。</li> </ul>	

第七次行政改革大綱（H30 - R4）	行政改革推進審議会委員からの意見	事務局が検討した見直しの方向性	各課からの意見
工 人材の育成と組織体制の整備 (ア) 職員の意識改革・能力向上 (イ) 組織の活性化・最適化	いくべきではないか。 <b>（浅井委員）</b> ○働く人がやる気をもって働くというのが大事である。 ○若い世代は、世間でも通用する自分の価値が、仕事を通じて成長に繋がり、実現できているか見える仕組みがあれば、市民サービスの向上や効率化にもつながる。 <b>（山平委員）</b> ○子育てから復帰した女性が <b>気持ちよく働けて、さらに役職に就いて働ける職場</b> を作ってほしい。 <b>（宇賀田委員）</b> ○ <b>女性をターゲットにした項目を作るべきでなく、全員職員の意識改革が必要</b> <b>（真野委員）</b> ○アンコンシャスバイアスは年代が高い人に多いので大事。 <b>民間への人材派遣、民間との連携も大事</b> 。民間を経験して、身をもって知ることが大事 ○改革に取り組めるチームを新設し、組織体制を作ることが重要。公民連携等を通じて成功体験を積むことで、職員の人材育成にもつながる。 <b>（小林委員）</b> ○職員の意識改革、能力向上は、何を差し置いても基本と思う。	○市としても <b>行政DXの推進</b> は大きな課題となっていることから、取組として加えていきたい。 ○組織の活性化については、 <b>働き方の見直し</b> に視点が移ってきていることから、取組として加えていきたい。	
<b>4 推進体制</b> (1) 行政改革に対する意識の徹底 (2) 実施計画の策定と進捗管理 (3) 実施計画などの公表		○庁内の推進体制を主に記載してく内容のため、職員の意識の変革に主眼を置いたものとした	

## 2 その他の意見

### （小林委員）

○長野市は、大きい政府と小さい政府のどちらを目指すのか。

### （阿部副会長）

○第五次総合計画の後期基本計画の策定を進めているが、行政改革大綱との整合性は図れているか。

### （宇賀田委員）

○業務の効率化については、審議会で議論するよりも職員の意識付けや職場での仕事の進め方がポイントとなる。

### （寺澤委員）

- 長野市の大綱は「市の事務事業を進めるうえでの基本的な姿勢」ととらえるほうが適切
- 現行の行政改革大綱の中には変える部分は少ないと思うし、また、変えてはいけないものも当然ある。
- 基本方針の4つの柱は変えることにはならないのではないかと。基本的には継続でいいのではないかと。
- 若い人たちの意見を取り入れるような仕組みが必要。様々な施策が高齢者層に厚くなる傾向にある。

### （真野委員）

- 未来のあるべき姿に対してどうするのかというバックキャストの考え方が必要
- 前回のカテゴリに分けて、それに対応するように話をしているからこういうことになるんだろうとは思っている。
- 未来を見据えてあるべき姿を描き、何をすべきかを論じるのがいいと思う。